



# 特定非営利活動法人日本防災士会 奈良県支部 広報 No.10/2014

## ■支部長挨拶

## 新年を迎えるにあたって

奈良県支部 支部長 木本喜信

希望にあふれる平成 26 年の新春を迎え、心からお喜びを申し上げます。私ども奈良県支部も結成以来 6 回目の新年を迎えることができました。これもひとえに会員の皆様方のお力添えのお陰と厚く御礼申し上げます。

さて、防災士は自治体との連携を図りながら、地域住民のリーダーとして、家庭や職場のある地域において、自分がおかれている視点で予防対策をたて、災害発生時にはそれに沿って動く事が求められております。

東日本大震災の教訓から、避難マニュアルは作るだけでなく、繰り返し訓練しないと意味がないことを我々も学びました。また災害時に助け合えるよう普段から近所の方々と関係を築いておくことも大事です。

1に「自分の命」2に「頭で覚えるよりも身体で覚える」3に「危機感を持つ事」が非常に大事です。支部会員の皆さま方も、常に防災知識の向上に努められますようお願いし、支部開催の各事業や研修をはじめ、関係各機関等で開催されます研修会への積極的な参加を呼びかけて、新年のご挨拶といたします。



## ■支部活動

## 奈良県防災総合訓練に参加

平成 25 年 8 月 31 日(土)「奈良県防災総合訓練」が、宇陀市心の森総合福祉公園において開催されました。大規模地震の発生を想定して 66 団体・約 1,200 名が参加して大規模に行われました。

当支部からは木村副支部長以下 20 名が参加し、避難訓練に参加した大宇陀中学校の生徒 60 名、拾生地区 30 名、松山西地区 30 名に対して、「簡易担架作成と搬送」と「三角巾の使用法」の講習と実技指導を行いました。

訓練参加者の多くは「簡易担架」や「三角巾の扱い方」が初めてのため「いい経験になった」と言って帰られました。体験することの大切さを痛感した一日になりました。

＜村山 央 防災士＞



## ■支部研修会＜教育・研修部会主催＞ 奈良気象台防災官による気象講習

日 時：平成 25 年 9 月 29 日(日) 午後 1 時半～4 時  
場 所：奈良市防災センター

奈良地方気象台防災官 小野善史氏をお招きし「気象災害に関する講話（地震や風水害へ備える）」と題して講演していただきました。46 名の支部会員が受講しました。

地震について、南海トラフや奈良県の活断層が動いた時の予想被害、緊急地震速報のしくみなど、いつどこで起きても不思議でない地震への備え

の必要性を学びました。また、風水害については、台風や集中豪雨により奈良県南部は土砂災害、北部は河川の氾濫などによる災害にたびたび見舞われていること、雷日数や短時間の激しい雨が増加していること、注意報や警報・特別警報の意味を良く理解し災害に遭遇した時に被害に遭わない安全確保行動等を、具体的に説明していただきました。防災士会員で気象予報士でもある瀧澤さんからは、風や雨・積乱雲の仕組みなどをわかりやすく説明していただきました。

地球温暖化に伴い記録を更新する豪雨が増加している昨今、情報を収集・理解し命を守るための正しい判断ができるよう、啓蒙活動をする必要性を強く感じました。 <村山 央 防災士>

## ■災害支援活動 福知山市の水害支援活動 ～ボランティアとして参加して～

日 時：9 月 19 日(木) 午前 9 時～午後 4 時  
場 所：京都府福知山市戸田地区

平成 25 年 9 月 16 日(月)の台風 18 号によって、京都府北部の丹波地方に位置する福知山市で由良川が氾濫し、多くの家屋が浸水しました。この水害の支援活動に、ボランティアとして山口正春防災士と川口均防災士が参加しました。

被災した地区は、9 年前に由良川が氾濫した際に現在の戸田地区に集団移転してきた方がほとんどで、再度被災されました。氾濫した水は地区全域を 150cm 冠水、ほとんどの家屋が床上浸水しました。道路や庭など一面に泥が堆積、乾いて砂ぼこりが町中に舞い、家々の壁には目の高さに冠水の跡が残っていました。稲は濁流を被り倒れたまま、家具や畳などが道路わきのいたるところに山と積まれています。

ボランティアセンターには広島県からも備品類が運び込まれ、福知山高校の 150 人ほか沢山のボランティアの人たちが集まり、ニーズに合わせて活動現場に向かいました。私たちは、午前中、廃棄する家財道具の堆積場所までの搬送をした後、自治会長さんに連れられ、老夫婦宅へ行き、ドロの洗浄をしました。午後より自治会長さん宅で庭を覆ったドロの除去をしました。自治会長の自宅の支援要請を後回しにされる態度に頭が下がる思いです。

今回の水害は、住民の方の権利問題で、新しい堤防の一部が繋がっておらず、その部分から越流したとのこと。自分の事を後回しにする人がいる一方、自分の事しか考えない人もいます事を感じました。 <川口 均 防災士>



## ■講師派遣

# 1.障害を持つ方々と共に避難訓練

平成 25 年 11 月 30 日(土)、桜井市福祉センターにおいて、桜井市ボランティア連絡協議会主催の避難訓練が「障害者さんと共に緊急避難を考える」をテーマに開催されました。訓練には、桜井市の 20 のボランティア団体、市民約 90 人（内 3 名の障害者の方）が参加されました。

研修用 DVD 上映後、福祉センターを発着点として、車いす一台に 4～5 名が付き添い、19 台の車いすが四コースに分かれ、それぞれの目的地まで車いすでのまち歩きを体験しました。ゴーグルを装着する人、耳栓を装着する人、車いすに乗る人という障害体験をとおして相手を理解し、いざという時の避難行動・支援活動につなげるというものです。一般公道での訓練で、車の通行や段差・坂・穴などに苦戦しながら、声を掛け合い、交代してそれぞれの体験をしました。福祉センターに戻った後、奈良県支部から参加した、植村（三宅町）・井上（奈良市）・高木（奈良市）・柏田（田原本町）・村山（広陵町）の 6 名の防災士が「身近に役立つ防災講座」と題し、研修を行いました。

私達防災士は、この訓練を通して、障害がある方の立場を体験し、生の声を聞くことができました。奈良県支部としてこのような訓練に参加するのは初めてで、障害のある方の気持ちを少しでも理解することができ、今後の防災活動をするうえで貴重な体験になりました。 <村山 央 防災士>



## 2.奈良市地域防災リーダー養成研修事業

奈良市では 10 月から市内中学校の生徒・教職員・PTA・校区内の自治会員を対象にした「地域防災リーダー養成研修事業」が行われています。奈良市教育委員会（学校給食課）からこの事業を行うにあたって当支部に対し協力要請があったことから、担当中学校へ防災学習及び実技研修会等へ講師を派遣しました。

この事業は、奈良市内の 14 校で行われるもので、講師は、奈良災害ネット・奈良市危機管理課・奈良地方気象台そして日本防災士会奈良県支部が担当しています。当支部は、春日・平城西・京西・平城・登美ヶ丘西・月ヶ瀬中学校を担当することになり「避難訓練後の防災研修・簡易タンカと三角巾の使用法・被災時における対処法・いざという時にあわてない心構え」などについて研修を行いました。 <植村信吉 防災士>

## 3.天川村和田地区総合防災訓練

平成 25 年 9 月 8 日(日)、天川村の旧西小学校体育館にて、総合防災訓練が開催されました。この訓練は、天川村和田地区自主防災組織が主催し、奈良県（深層崩壊対策室・安全安心まちづくり推進課）、中吉野広域消防組合、天川村の共催で行われました。

連日の大雨で土砂災害警戒情報が発令されたのを受け、天川村長は和田地区に「避難準備情報」、30 分後「避難勧告」を発令という状況を想定し、避難訓練を行い、和田地区の人々約 50 人が区民ホールに集まりました。

支部からは木本支部長・木村・植村・高木・松尾・柏田・村山防災士の 7 名が参加し、旧西小学校にて次の 4 つを行いました。

1.簡易担架作り 2.空き缶を使った炊飯 3.避難所 H U G 4.三角巾の使用  
方法（中吉野消防組合の補助） <村山 央 防災士>



## ■地域防災訓練 奈良市六条校区で 地域防災避難訓練

さる平成 25 年 11 月 16 日(土)、奈良市六条校区で地域防災訓練が行われました。訓練は「午前 7 時頃に南海トラフを震源とする M マグニチュード 8.0 と推定される地震が発生した。」と仮定し行われました。

訓練には、地区自治連合会加入 34 自治会を始め、奈良市危機管理課・奈良市南消防署・奈良市消防都跡分団そして地域内各種団体も協力し、約 400 名（関係者含む）が参加しました。

訓練会場では、簡易タンカ・バケツリレー消火・車いすでの避難・炊き出しなど多彩な訓練が行われ、防災グッズや市防災倉庫などの説明や展示コーナーも設けられました。

訓練最後には、地元サッカーチームの子供たちによる放水経験があり、参加者一同災害時の協力体制の必要性を実感した訓練となりました。

この訓練は、地元自主防災・防犯会が主催して初めて開催されたもので、地域の防災士の方々が中心的役割を果たしました。 <植村信吉 防災士>



## ■合同避難訓練 奈良市東部山間地域で合同避難訓練

平成 25 年 11 月 2 日(土)、大和高原都祁（奈良市東部山間地域）において「都祁地区自主防災防犯会」と「奈良市消防団都祁分団」共催の避難訓練が、500 余名が参加し行われました。

自治会長及び地区リーダーが住民を取りまとめて先導、消防団と自主防災役員が連携して避難し、災害対策本部に随時情報を無線連絡する実践さながらの訓練を行うことで、課題点を拾い出すことを目的としていました。

訓練により、「自治連合会・消防団・消防署・危機管理課・行政センター」それぞれの役割が明確になり、問題点をみんなで考えていこうという山間部ならではの良さを発見できたと思います。

第二部では「濃煙体験・レスキュー体験・放水体験・応急手当・搬送訓練・各展示コーナー（簡易トイレ・防災グッズ・大震災パネル・消防車両）」それぞれのブースで、楽しみながら防災の知識を提供しました。

<末田政一 防災士>



### ■発行日

2014 年 1 月 1 日

### ■発行者

日本防災士会奈良県支部  
支部長 木本喜信

### ■事務局

日本防災士会奈良県支部  
事務局長 植村信吉

〒636-0215

奈良県磯城郡三宅町上但馬 1-5  
Tel.090-8378-1106

### ■ホームページ

<http://bousainara.com>

### ■Eメール

[mail@bousainara.com](mailto:mail@bousainara.com)